

静中・静高創立125周年記念式典



静中・静高 関東同窓会 報

記念式典が

平成十五年十一月十五日（土）

開催されました。

在校生、同窓生達、約三千人が参加し、「高きを仰ぐ」精神の下、『文武両道』の進学校として県内外に存在感を示して来た、我母校の記念すべき百二十五年の歴史を祝うと共に歴史を振り返りこの節目を飾った。静岡高校は明治十一年八月、静岡師範学校中学課として開学（生徒数三十七名）し、現在までに、三万人以上の同窓生を輩出してきました。静岡県立静岡高等学校として、昭和二十八年九月一日に改称された。

式典では、石川嘉延県知事、遠山敦子前文部科学相が来賓として出席。櫻井一男同窓会会長は挨拶で「江戸時代から明治時代へと新しい幕を開け、日本が近代化へと道をたどり始めた明治十一年、静岡の前身静岡中学が誕生しました。以来、流転苦難の一時期をたどりながら幾多の逸材の社会的活動は高く評価され、その個々における輝きの集積が静中・静岡と言う大河を形成して来たのです」との歴史を回顧した。PTA会長高井俊祐は「本日茲に創立百二十五周年を迎えましたことは、恩師の先生方、同窓生、在校生とともに、私たちPTAにとりまして、この上ない大きな喜びであります。

卒業生が高校時代に得た校訓を胸に刻み、世界各地で活躍されていることは、現在静岡高校で学ぶ子供達にとって大きな誇りであり、目標で

静中・静岡高関東同窓会
 会報 第56号
 平成15年12月30日発行
 編集人 山梨由記



あります」印高学生会長から「岳南健児一千の理想は高し富士の山。大正五年に制定されて、歌い継がれてきた校歌は、敬虔な祈りにも似た思いと、いざやらんかなの熱き青春の血たぎるものを感じさせます」遠藤亮平校長は「同窓生の『静高はよかった』という声があちこちで聞かれます。今世紀に突きつけられた困難な課題は、知性によってのみしか解決出来ない。高校生活は大学進学のための学問では無く、部活動を通して友情を育み、他人の痛みを感じる事の出来る、情の分かる人間を自らで創造して欲しい」と学ぶことへの謙虚な姿勢を堅持する事が大切と力説した。

第二部は、「映像と音楽とスピーチで綴る」と題して、元NHKの随筆家の山川静夫さんらの司会で、ミケランジェロの壁画撮影などで有名な写真家岡村崔さん、国連元ガバナンス・行政部次長の鈴木絲子さん、作家瀧名秀明さんら同窓生へのインタビューなども行われ、歴史ある母校へ

の思いを新たに知る事が出来た。

祝賀会は、会場を静岡駅南口のホテルセンチュリーに移して開催された。午前の記念式典に続き、同窓生や恩師ら約千四百人が参加し「理想は高し富士の山」と歌う校歌に、身もひきしまり、由緒と伝統のある我母校に学んだ慶びにひたり、各々が、互いに旧交を暖める事が出来た。73期の遠山敦子前文部科学大臣は「毎日富士山を眺めて登校した思い出が鮮明であります。『高さを仰ぐ』の精神で今日まで頑張つてまいりました。長い伝統を重んじ、更なる発展を祈念する」と述べた。



夕方には、生憎の雨降る中で、提灯行列が市役所裏の青葉公園から、約六百人が提灯と傘をもち、呉服町通りを静岡駅方面まで、歩き、祝賀ムードを盛り上げた。

さらなる発展を！

60期 上杉重吉

11月15日朝、新幹線を降りて東静岡駅に向かう時、作家・三木卓、恩師の息・久沢正雄（ともに70期）、長い間同窓会長を勤めてくださった鈴木与平氏の長女・田中佐知子（74期）などの方々と、まづ挨拶を交わす。

記念式典会場のグランシップに入ると、関東同窓会の役員諸氏や当番幹事82期の面々に会い、控室では桜井一男会長（64期）など本部役員、遠藤亮平校長および歴代校長、そして昨夏の総会以来久しぶりに遠山敦子前文部科学相（73期）とも懇談の一刻を持つことができた。

そして、125周年記念事業のため尽力されながら平成12年6月他界された川村春雄前同窓会長（46期）の奥様と、会場の最前列に並ぶよう案内された。後ろの席の在校生とも話し合え、100周年の記念品ネクタイピンを今日つけてきたことを告げたら驚かれ、喜ばれた。

式典第二部、映像と音楽と

スピーチで綴る「125年の歩み・歴史から未来へ」は感銘を受けた。司会の山川静夫（67期）の巧みなトーク、特に「ミケランジェロのヴァティカン壁画」などの美術カメラマン岡村崔（60期）との対談は良かった。32年前ローマを訪れた時、岡村崔に諸所を案内してもらったことを思い出した。

午後、ホテルセンチュリー静岡に移つての祝賀会。関東同窓会幹事の原崎郁平（51期）岩井平一郎（57期）両先輩をはじめ、同期の友などと話が弾んだ。8月に関西支部の会長に選出された柴田尚之（81期）からは「関東の総会にぜひ出席したい、よろしく」との話。

また諸事業の推進役として献身された蔭山昌弘先生（81期）に感謝・表彰、また野球部などの活躍選手の登場には万雷の拍手が送られた。皆で今夏の県大会、甲子園での応援・感動を楽しく思い出しながら……。

夕方、提灯行列の集会場市役所裏の青葉イベント広場「葵スクエア」へ130メートル

ほど離れた呉服町5丁目では生まれ育ち、昭和15年から5年間通学し戦時中、郷土研究部で駅南の遺跡（のちに登呂）発掘に従事した友人、焼津の片山勝彦・由比の手島英真両兄と一緒に、雨中を駅前まで行進した。その歩く姿がNHK TV ニュース「たつぷり静岡」に写されていたと、東京の自宅まで数人の知合い・親戚から電話を頂いたと聞いてびっくりした。

多数の校友が一丸となった、多彩な諸行事とすてきな集い！楽しくすごすことができた幸せを思う。

思えば母校の歴史125年を二つに折ると、その折れ目に、我々前後はともに学んだことになる。150周年に向かって印高精神をさらに高揚し、「静中・静高に幸あれ」と心から祈る次第である。



創立百二十五周年

式典に参加して

82期 田畑秀典

久しぶりの静岡で富士山を見ながら、懐かしい恩師や友人との語らいを想定していた

ところ、無常な「曇りのち雨の天気予報」。イベント前日の幹事全員の祈りを無視して、静校の伝統であり（これは今回いただいた写真集よりわかったことですが）大事な野外イベントであるちようちん行



列のまさにその時、最悪の雨が降り出してしまいました。ところがこのような事態にもかかわらず、通行中の一般市民も巻き込んで、ちようちんが準備していた半分以上の800個も売れ、さらに一緒に練り歩くということに接し、改めて静岡の人気の高さを実感いたしました。

われわれ静岡高卒業生はこの人気におごることなく、地元静岡はもちろんのこと日本、広くは世界に貢献すべくいつまでも精進しなければと改めて感じた次第です。

次回150周年を目指して気力、体力、精神力が衰えないようお互いががんばりましよう。

記念式典で

『讃歌』披露

100期 恒光 隆法

「今それぞれの太陽が、」で始まる新静岡の歌『讃歌』が、去る十一月十五日、百二十五周年式典において披露されました。

会報第55号で『讃歌』完成



をご報告させていただきましたが、その後の野球部の活躍によって、静岡球場、そして甲子園球場に於いてたくさんの方々に歌っていただくことが出来ました。

この『讃歌』制作は、百二十五周年事業の一つであるとともに、応援指導部とOB会にとっても的一大イベントでもありました。

球場での野球応援以外に、CD制作も含めた『讃歌』への取り組み、関東・関西同窓会等への広報活動、そして記念事業式典でのステージなど、存続の危機が囁かれる中にあっても、その役割が果たせたものと確信しています。

ひとりひとりの

ご協力を

○ 総会や同期会などの会合には億劫がらずに出席し、楽しい一時を持ちましょう。

○ 年会費の拠出者が年を追って減少し、さびしい事です。関東同窓会の運営も難しくなってきました。

関東同窓会の円滑な運営のため平成十六年度会費（三千円）の納入を同封の振込用紙で、お願い致します。

なお振込用紙は会報の毎号に年会費の納入済み、未納に関わらず同封しております事をご了承ください。

○ 宛先不明のため、会報返送が毎回多数有ります。住所変更の場合は、至急ご一報の程お願い致します。

★ 会報の広告募集 年2回（2万円）にご協力をお願い致します。詳細は事務局までお問い合わせ下さい。

★ 事務局へのご連絡は……
〒101-0045千代田区神田鍛冶二七三
数下ビル六階 野方法律事務所内
静中・静岡同窓会

野方重人（77期）

TEL 03・32551・2348

第二十九回

静中・静岡関東同窓会

総会・懇親会が

開催されました。

総務委員長 野方 重人

本年度の総会・懇親会が、七月四日午後六時から三時間、盛大に行われました。お茶の水の「中央大学駿河台記念館」には、二百余名の同窓会員が集結した。総会は例年通り校歌斉唱を応援指導部OBの恒光隆法（100期）の指導の下に行い、議長選出、昨年度事業の報告、監査報告、本年度事業及び予算の承認を滞りなく進行了。引続き、75期の村松友視氏をお招きしての講演会が開催された。

独特の「静岡弁文化論」が軽妙洒落な語り口と共に展開され、会場は笑いの渦に包まれた。辛辣とも言える批評さえも、「だけん、人はいんだよ」精神に溢れている事で心地よい故郷讃歌だと、大いに歓迎された。

懇親会は場所を移して一階のレストランに。静岡からお招きした遠藤亮平母校校長、

櫻井一男本部同窓会会長（64期）の来賓スピーチで肅々と開始された。

当番幹事は81期であったが、昨年度の混乱を反省して役員会が主体性をもってリードすべく、一年かけて準備をしてきた。運営マニュアルの作成、役員及び当番幹事の役割分担の明確化、メールを活用しての決定事項の迅速な確認等々、多岐に亘る構造改革が行われたのである。と言いたいのであるが、幾つかの間違いが重なって、懇親会はスタートから大喧騒。考え様によつては、これほど欲談で盛り上がる会も珍しい訳で、主催者側があれやこれやと演出に凝る必要は無いのかも知れない。何はともあれ、9時ぎりぎりまで賑やかな時を過ぎたが、帰り際の会員達のにこやかな笑顔が印象に残る夜であった。

村松友視氏の講演

上海仕込みの

東京生まれの

清水港育ち

私の事を自己紹介する時に

は上海仕込みの東京生まれの清水港育ちと言っているんですね。それはどう言う事かと言いますと、一九三九年、昭和十四年、私の父親と母親が結婚しまして当時上海に日本字の日本人向けの上海毎日新聞がありまして、そこへ親父が勤めたんですね。ですから上海に暮らす事になった。で、お袋もそれに付き合って、上海に行つて暮らしましたから、新婚生活も上海で暮らしていたんですね。そうしている内に、お袋のお腹に子供できたんですね。その子供がお腹の中で、三ヶ月くらいまで育つた時に、親父が死んでしまふんですね。これが、親父が二七才で死んだんですね。腸チフスと言つて病気で、今だったら、もう死ぬ必要が無い病気なんですけれど、当時の事情とか、親父の体調でそのような事になったんですね。で、それで、お袋は上海で親父の葬式をしまして、船に乗つて長崎に来て、長崎から東京へ帰つて来て私を生んだと言ふ事になる。それで、お袋は、二十歳だったんですね。二十歳ですから、子供が

生まれた時に母親にも将来が有ると言う事で、私の祖父が自分の籍に入れまして、一番下の子供の籍にいられた。私は祖父の一番下の子供になったんですね。私の父親と言うのは、長男なんです。ですから私の一番の兄貴が私の父親と言う事になるんですね。私の話にはそこ、かしこに嘘と本当とにまみれて暮らして来たと思うのです。そう言う嘘が私の人生に絡んだんですね。それでお袋は二十歳です。から将来があるから嫁に行つていくのですけれど、それもお袋も死んだと言ひ聞かされたんですね。ですから、ここにもう一つの嘘があるのです。そして四歳くらいになった時に、戦争が激化してきましてね。

森町と言うのは、私の祖父の在所なんです。マァーそこへ頼つて行つてそこで疎開して終戦を迎えて、戦後清水港に出て来て婆さんと二人暮らしをする。と、それで、上海仕込みの東京生まれの清水港育ちが完結するのですけれど。遠州森町から清水港に出てきた、なんかどつつかで聞いた事がある様な話で（笑い）それで婆さんに聞いて見ますと、私は生まれてしばらく片目が開かなかつたらしい（笑い）。で、あの、逆さにしてお尻をたたいたりしましたから、ちよつと金毘羅さん方面は、気をつけた方が良くと言う感じがあつて。何で婆さんと二人暮らしになつてしまったのかと言いますと、戦後になつて爺さんが別の女を作りまして、別の処に住み始めまして、これが鎌倉なんです。鎌倉に住みはじめまして、そこから仕送りをして婆さんと孫をならしたせよと言ふ事です。当时に爺さんは良くやつたなと思うのは、婆さんの怨念が自分の方に来ないために孫の養育と言う生活の“張り”を与えた訳ですね。ですから、

本来向こうに行くべき意識が私の存在によって止まって仕舞うんですね。ですから私の役目はナンカ飴玉と言うか衝立て代わりと言うか、そんな役になった。確かにですね、本来向こうに向かうべきエネルギーがですね、ここに何んか妙なテーマが設定されると宙に泳ぐと言う、感じがあるんですね。あの水戸泉の相撲と言うのを考えてみますと“控え”にいたるときは「勝つ」と思っているのですが、それと“時間いっぱい”になるとあの人はやる事があるんですね。こないっぱい塩を投げてガンガンとやって、本当は相撲はその後にはあるんですが、水戸泉の目的はあそこで終わってしまうんですね（笑い）。ですから水戸泉の勝ち方と言うのは、なんとなくダラダラと勝ったりして負け方もなんだか自分の本来のテーマである勝負と言う前に塩をまくと言うテーマを設定して仕舞って本来向こうに向かうエネルギーが迷ってしまう。高見盛も心配なんです（笑い）。その辺が自分と共通点があるような気がするのです

が、まあ、そうやって婆さんを爺さんがうまく扱ったつもりなんです。婆さんにしてみると扱われたと言う気がありますから、やっぱりあま

静中・静高



じつと動かさないでいた記憶があります。えー、新聞を取っていまして配達されて来てまず最初に開くのは人生相談欄なんです。これは屈折し

り幸せな人生をこなしていないうね。婆さんの顔を思い浮かべてみて、あまり生き生きとした笑顔と言うのは浮かんできて、ぼんやりとした宙に目をすえた、煙管なんか

料理に向けた情熱を失ってしまったのです。ですから、ほとんど私の記憶は、鮭と紅生差とごま塩と言う、これが順繰りに繰り返されて出て来る。だから、あんまりご馳走と言う記憶がないんですね。

ていますよね。最初に開くのが、人生相談欄と言うのは。自分より苦勞した女なんか出てくると、ちよつとニヤツと笑ったりする（笑い）。性格がちよつとゆがんでるんですね。それから料理と言うものに關しても、東京にいる頃は親戚の者が食べに来る程の料理上手だったんですね。婆さんは、戦後になって味の分からないう孫を相手にしているものだから料理に向けた情熱を失ってしまったのです。ですから、ほとんど私の記憶は、鮭と紅生差とごま塩と言う、これが順繰りに繰り返されて出て来る。だから、あんまりご馳走と言う記憶がないんですね。

だから最近、寿司屋へ行くと子供がカウンターに座って、中トロなんて注文しているお腹が立つんですね（笑い）。我々の子供の頃に限らず大人でもあまりカウンターに座って寿司をたべている風景はあんまり見た事がないんですね。寿司と言うのは、取って食べる様なもの、特に子供にとっては、あのー、お客様が来た時について取ってもらう様な感じのものなんです。自分が食べたから取って貰うと言うのは、最も大袈裟なものだったんですね。だから、お客様が来ると言うのは子供に取っては、すごく楽しいものだったんですね。そうすると、お客様は子供の言う気持ちを知っていますから、四つくらい残して帰る。味の着いたご飯の方は食べて、ネタをはいて醤油に漬けて、ハイチョウ、蠅帳って古い話ですね（笑い）。

らTVのディレクターに話をしたら番組を作りましようと言うんですね（笑い）。そんな事で番組が出来るんですかと言ったら、出来る、大丈夫だと言う。それでスタジオに行きましたら料理番組なんです。あの大袈裟なエプロンをさせられて立っている。私の前に何んか松・竹・梅と置いてあるんですね。そして本番が始まるとまずカメラが寿司を写すんですね。まず本日の材料をご紹介します、と、村松さん、料理に取り掛かって下さいと言う。それを私は、ただネタをはいて、醤油に漬けるだけの事をするんですね。

（村松氏の講演の後で）

村松氏が二年生の時の担任であつた土屋先生（英語）のご長女・マユミさんから、村松氏にゆかりの品が渡された。土屋先生は大分前に鬼籍に入られたが、数年前に令夫人も逝去され、マユミさんが遺された品々を整理していた処、原稿用紙を紙綴りで綴じたものがみつかった。土屋先

生は暇が来ると紙縫りを手づくりしていたとの事。原稿用紙の束のたまたま一番上にあったのが村松氏のものであり、「処分するのはあまりに勿体無い、いつかお返しをしよう」と大切に保管していた。因みに村松氏の作品は、ヘルマン・ヘッセ「車輪の下」の読後感想文であった。マユミさんは78期、ジュリーさんは83期。マユミさんは現在アメリカ在住だが、今日の同窓会に合わせてわざわざ帰国。

村松氏は、土屋先生がお嬢さまにジュリーと言う名前を付けられたことに強い印象：随分モダンな方だ：を持っていたと語っていた。

当番幹事(81期)

参戦記

○村松友視先生の講演はとても楽しくて、静岡を懐かしく思い出す事が出来ました。受付を担当しましたが、期毎に分けたので円滑に進められました。

(仲澤幸子)

○総会で一番の反省点は、懇親会場での事でした。挨拶が

始まる前に料理のカバーが外された為に会食・懇談が雑談で始まってしまった。マイクとスピーカーが一体型のお粗末なもので会場全体に声が届かず、ざわざわしてしまつた事。懇親会の途中でマイクとスピーカーを移動させたが時既に遅く、ざわざわは解消しなかつた。はんべんの提供と販売に許可を得ていたのに、当日、店の中では食べてはだめと言われ、店側と交渉をした。ハブニングは付き物ですね。

(仲谷博明)

○好評の内に総会を終了できて良かったです。司会と言う大役は重荷でしたが、皆さんとお会いできましたし、楽しませていただきました。

(磯谷和子)

○5月に初めての関東同期会を開催。22名集まりました。その大半が総会に出席し、本年度の最大派閥に。総会準備に奔走したのは、7名でしたが、他のメンバーも当日気持ち良く運営に協力してくれ、同期の良さを再発見しました。

(岡部政之)

学生(がくしょう)

64期 増田 政雄

少年 大志を抱き

古里の学び舎を

出でしより

五十有余年

学 未だ成らず

師も先達も 世を去り

己の力を信じて

未知の荒れ野に挑む

果つるともなき

道なれや

わが髪 すでに白けれど

赤き心ぞ

なお激しく燃ゆる

遠く 古里の

祭りの文に接し

深き想いに 涙落としぬ

★ 各期幹事一覧表 ★

幹事が変更の場合は事務局までお知らせ下さい。特に幹事未定の期は至急選出してご連絡下さい。

★ 各期幹事一覧表 ★	73	山中博司・山梨由記
後藤孝子	74	佐藤鐘司・藤原經史
今田 肇・佐藤修二	75	
井出辰一郎	76	
酒井孝太郎・鈴木 浩	77	
清水雅尚・野方重人	78	
三浦位通	79	
鈴木藤男・垣生尚敬	80	
上田尚亮	81	
吉野卓史・上出和子	82	
本多英一・仲谷幸子	83	
磯谷和子・川崎久美子	84	
八巻浩行・秋山 好	85	
山本雅敏	86	
池田幸司・深津俊郎	87	
成岡和美・井出慎吾	88	
薬科名雄・石川嘉和	89	
高橋 宏	90	
鳥巢 修・新村暢宏	91	
荒井千明・米澤宣行	92	
山野直文	93	
岡村幸彦・大羽章弘	94	
松野敦子	95	
奥田規之・細沢 優	96	
清水智人	97	
小泉輝武・開榮啓之	98	
桜井亮介・深田 均	99	
浦田 彰	100	
海野幸雄・後藤弘枝	101	
大高源之丞・大長 智	102	
宮崎吉英・山本龍男	103	
荒谷じつ子・吉崎英輔	104	
鈴木敏行	105	
朝比奈正三・小杉 弘	106	
田中俊男	107	
野沢正憲・佐野 旭	108	
青木静男・原 淳	109	
堤 崇・山本雅之助	110	
大石次男	111	
吉川隆士・大石一輔	112	
野沢正憲・佐野 旭	113	
朝比奈正三・小杉 弘	114	
鈴木敏行	115	
荒谷じつ子・吉崎英輔	116	
宮崎吉英・山本龍男	117	
大高源之丞・大長 智	118	
海野幸雄・後藤弘枝	119	
浦田 彰	120	
桜井亮介・深田 均	121	
浦田 彰	122	
海野幸雄・後藤弘枝	123	
大高源之丞・大長 智	124	
宮崎吉英・山本龍男	125	
荒谷じつ子・吉崎英輔	126	
鈴木敏行	127	
朝比奈正三・小杉 弘	128	
田中俊男	129	
野沢正憲・佐野 旭	130	
青木静男・原 淳	131	
堤 崇・山本雅之助	132	
大石次男	133	
吉川隆士・大石一輔	134	
野沢正憲・佐野 旭	135	
朝比奈正三・小杉 弘	136	
鈴木敏行	137	
荒谷じつ子・吉崎英輔	138	
宮崎吉英・山本龍男	139	
大高源之丞・大長 智	140	
海野幸雄・後藤弘枝	141	
浦田 彰	142	
桜井亮介・深田 均	143	
浦田 彰	144	
海野幸雄・後藤弘枝	145	
大高源之丞・大長 智	146	
宮崎吉英・山本龍男	147	
荒谷じつ子・吉崎英輔	148	
鈴木敏行	149	
朝比奈正三・小杉 弘	150	
田中俊男	151	
野沢正憲・佐野 旭	152	
青木静男・原 淳	153	
堤 崇・山本雅之助	154	
大石次男	155	
吉川隆士・大石一輔	156	
野沢正憲・佐野 旭	157	
朝比奈正三・小杉 弘	158	
鈴木敏行	159	
荒谷じつ子・吉崎英輔	160	
宮崎吉英・山本龍男	161	
大高源之丞・大長 智	162	
海野幸雄・後藤弘枝	163	
浦田 彰	164	
桜井亮介・深田 均	165	
浦田 彰	166	
海野幸雄・後藤弘枝	167	
大高源之丞・大長 智	168	
宮崎吉英・山本龍男	169	
荒谷じつ子・吉崎英輔	170	
鈴木敏行	171	
朝比奈正三・小杉 弘	172	
田中俊男	173	
野沢正憲・佐野 旭	174	
青木静男・原 淳	175	
堤 崇・山本雅之助	176	
大石次男	177	
吉川隆士・大石一輔	178	
野沢正憲・佐野 旭	179	
朝比奈正三・小杉 弘	180	
鈴木敏行	181	
荒谷じつ子・吉崎英輔	182	
宮崎吉英・山本龍男	183	
大高源之丞・大長 智	184	
海野幸雄・後藤弘枝	185	
浦田 彰	186	
桜井亮介・深田 均	187	
浦田 彰	188	
海野幸雄・後藤弘枝	189	
大高源之丞・大長 智	190	
宮崎吉英・山本龍男	191	
荒谷じつ子・吉崎英輔	192	
鈴木敏行	193	
朝比奈正三・小杉 弘	194	
田中俊男	195	
野沢正憲・佐野 旭	196	
青木静男・原 淳	197	
堤 崇・山本雅之助	198	
大石次男	199	
吉川隆士・大石一輔	200	
野沢正憲・佐野 旭	201	
朝比奈正三・小杉 弘	202	
鈴木敏行	203	
荒谷じつ子・吉崎英輔	204	
宮崎吉英・山本龍男	205	
大高源之丞・大長 智	206	
海野幸雄・後藤弘枝	207	
浦田 彰	208	
桜井亮介・深田 均	209	
浦田 彰	210	
海野幸雄・後藤弘枝	211	
大高源之丞・大長 智	212	
宮崎吉英・山本龍男	213	
荒谷じつ子・吉崎英輔	214	
鈴木敏行	215	
朝比奈正三・小杉 弘	216	
田中俊男	217	
野沢正憲・佐野 旭	218	
青木静男・原 淳	219	
堤 崇・山本雅之助	220	
大石次男	221	
吉川隆士・大石一輔	222	
野沢正憲・佐野 旭	223	
朝比奈正三・小杉 弘	224	
鈴木敏行	225	
荒谷じつ子・吉崎英輔	226	
宮崎吉英・山本龍男	227	
大高源之丞・大長 智	228	
海野幸雄・後藤弘枝	229	
浦田 彰	230	
桜井亮介・深田 均	231	
浦田 彰	232	
海野幸雄・後藤弘枝	233	
大高源之丞・大長 智	234	
宮崎吉英・山本龍男	235	
荒谷じつ子・吉崎英輔	236	
鈴木敏行	237	
朝比奈正三・小杉 弘	238	
田中俊男	239	
野沢正憲・佐野 旭	240	
青木静男・原 淳	241	
堤 崇・山本雅之助	242	
大石次男	243	
吉川隆士・大石一輔	244	
野沢正憲・佐野 旭	245	
朝比奈正三・小杉 弘	246	
鈴木敏行	247	
荒谷じつ子・吉崎英輔	248	
宮崎吉英・山本龍男	249	
大高源之丞・大長 智	250	
海野幸雄・後藤弘枝	251	
浦田 彰	252	
桜井亮介・深田 均	253	
浦田 彰	254	
海野幸雄・後藤弘枝	255	
大高源之丞・大長 智	256	
宮崎吉英・山本龍男	257	
荒谷じつ子・吉崎英輔	258	
鈴木敏行	259	
朝比奈正三・小杉 弘	260	
田中俊男	261	
野沢正憲・佐野 旭	262	
青木静男・原 淳	263	
堤 崇・山本雅之助	264	
大石次男	265	
吉川隆士・大石一輔	266	
野沢正憲・佐野 旭	267	
朝比奈正三・小杉 弘	268	
鈴木敏行	269	
荒谷じつ子・吉崎英輔	270	
宮崎吉英・山本龍男	271	
大高源之丞・大長 智	272	
海野幸雄・後藤弘枝	273	
浦田 彰	274	
桜井亮介・深田 均	275	
浦田 彰	276	
海野幸雄・後藤弘枝	277	
大高源之丞・大長 智	278	
宮崎吉英・山本龍男	279	
荒谷じつ子・吉崎英輔	280	
鈴木敏行	281	
朝比奈正三・小杉 弘	282	
田中俊男	283	
野沢正憲・佐野 旭	284	
青木静男・原 淳	285	
堤 崇・山本雅之助	286	
大石次男	287	
吉川隆士・大石一輔	288	
野沢正憲・佐野 旭	289	
朝比奈正三・小杉 弘	290	
鈴木敏行	291	
荒谷じつ子・吉崎英輔	292	
宮崎吉英・山本龍男	293	
大高源之丞・大長 智	294	
海野幸雄・後藤弘枝	295	
浦田 彰	296	
桜井亮介・深田 均	297	
浦田 彰	298	
海野幸雄・後藤弘枝	299	
大高源之丞・大長 智	300	

★ 幹事未定の期は……至急選出してご連絡下さい。

静岡の万葉を歩く

(二十七)

51期 原崎 郁平

引馬野に

句う榛原 入り乱り

衣にははせ 旅のしるしに

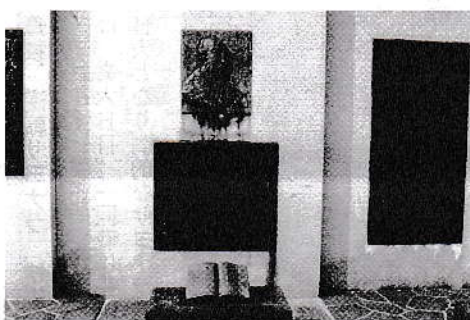
長興麻呂(巻一・五七)

浜松市東伊場一―三二

真淵翁顕彰碑広場に歌碑が置いてある。昭和五十六年十一月建立 彫刻者 水野欣三(彫刻家) 加茂真淵翁顕彰碑の正面肖像の前の卓子状の黒石に刻印、寸法は幅三十七センチ、縦二十六センチ。歌の大意は「引馬野、その美しく色づいている萩野の原に入り乱り衣に染めては、そこまで行った旅の記念にね」

歌碑が立っているところは、JR東海道線浜松駅より宇布見行きバスで加茂真淵記念館前下車。記念館入り口の左の真淵翁顕彰碑広場内である。道路沿いの記念館入り口には懸居神社と書いた石柱が立っている。現地に到着して探しても非常に分かりにくい。道路から記念館へは坂を登る。懸居神社の奥に真淵記

念館がある。加茂真淵に関する資料が陳列されている。記念館の受付に頼むと案内人が丁寧な解説をしてくれる。真淵は神官岡部政信の三男としてこの地に生まれている。(二六九七―一七六九)



真淵は江戸中期の国学者で歌人。氏は岡部、号を懸居(あたがい)と言い、荷田春海(かたのあずまろ)に学び、五十歳の時に八代將軍吉宗の次男田安武の和学御用係となり、日本の古典研究に努め国学を大成させた本居宣長、荒木田久老、加藤先蔭、村田春海、楳取魚彦(かとりなひこ)たちはその門人。

第二十七回

印高会ゴルフ

77期 清水雅尚

著書には「万葉集考」「歌意考」「冠辞考」「国家論臆説」「古今和歌集打聴」などがある。又、松坂の一夜での本居宣長との出会いは有名である。浜松には「汽車にひかれた狐」という次のような民話がある。明治三十年のころの事である。狐が沢山出て遊んでいた。ある朝の六時ころ、勢い良く走ってきた列車が急に止まった。機関手は早朝ではあるし、てっきり人を轢いたのだと思って見たら、それは大きな狐であった。その大きな狐を村の人は大勢で煮て食べてしまった。するとその内の二人の青年に狐がついた。二人の青年が言うには「母狐は機関手を騙そうとして轢かれてしまった。大変残念だ。今から母狐を食った人々を片っ端から食い殺してしまふ」青年に取り付いていた狐は殺された狐の子供であった。村人はそれから諸方の神社に巡拝して回ったが、その青年が口走るには「もう何日もすると、この青年は死ぬ」と言った。そして、その日になつたら、青年は息を止めたと言う。



各期の会員の住所録をPCに登録・管理しておりますのでご利用下さい

各期の幹事又はそれに準じる方のご依頼があれば、その期の住所録をコピーしてFAX送信、又は、E-MAIL送信を致しますので、利用して下さい。

会員増強委員会 垣生 尚敬 (78期)

TEL 0468-66-2304 (自宅)

E-MAIL yas1habu@poppy.ocn.ne.jp

広報委員会 山梨 由記 (73期)

TEL 047-478-6906 (会社)

E-MAIL kingsmil@cba.att.ne.jp

FAX 047-478-6907 (会社)

広報委員会 高橋 宏 (87期)

TEL 03-3756-5851 (自宅)

E-MAIL hiroshi3.takahashi@toshiba.co.jp

FAX 03-3756-5851 (自宅)

高校野球 甲子園出場 4年ぶり、母校21度目

静岡県大会の準決勝までの6試合で19犠打と手堅い野球で勝ち上がってきた母校。決勝戦での浜名校は春の選抜の出場校。この一戦では、戦い方がガラリと変わった。

三回一死、3番服部の打順で、二塁にいた青池は自分の判断で三塁をねらった。これは、打者服部が打って出て、ランエンドヒットになり、完璧なスタートをしていた青池

は、左前打でも々と先制のホームを踏んで得点。

母校は、この後も4盗塁。七回にはバスター・エンドランも決めて、貴重な追加点。対戦相手の浜名の好投手・松下を機動力で崩して勝利した。「サイン無しの盗塁が多かった」とは、畑田監督の弁。県大会優勝おめでとう。サア、甲子園だ。

母校 逆転サヨナラ 快勝

待ちに待った甲子園の試合は、第六日目。一回戦は長崎日大となり劇的なサヨナラ勝



で二回戦進出を決めた。九回裏、4対3で静岡の攻撃、自ら値千金の同点右前打を放っていた服部が、相手川瀬投手の白球がバックネット方向に転がる暴投で生還。サヨナラだ。ホームベース上では生還した三塁走者の服部を大喜びで迎える静岡ナインで賑わう。やったぞ、母校。今大会初のサヨナラ勝は2年生右腕、増井が演出した。3点リードされた五回2死一、二塁でエース鶴田からマウンドを引継ぐ。九回まで無失点の好救援して逆転劇を呼ぶ。「先輩には申し訳ないけどピンチでも楽しかった」と増井投手。途中までミスが続いて4失点で攻撃も六、七、八回総て得点圏に走者を置いて決勝打が出ない。「母校のベンチの雰囲気は一度も暗くならなかった」と五回に2ランを打った西川は語る。春夏通算35度目の甲子園で静岡県勢70勝目を挙げる。

母校 見せた底力で2勝

二回戦は鳥取の八頭高校。両チーム、三回まで得点無く、先攻の母校が一点取るとその裏、八頭も一点返して同点。



更に五、六、七回にも両チーム得点無く、八回に静岡が一点取り、優位に立つが又その裏一点許して、同点となる。取ったらずるすぐ取られる展開になっていた。九回、静岡の攻め、一死、一塁から、一ノ宮の左越えタイムリー二塁打で勝ち越し。一回戦で勝投手となった増井が先発。六回以降、毎回走者を背負ったが、要所を閉めて110球の完投勝利。静岡には鶴田、川口の右、左の二枚看板が揃っていたが、今日の先発は一回戦の長崎日大戦で好救援した3番手の右腕増井だ。「一番調子のいい投手を使う」との畑田監督の期待通り、九回を投げきった。スライダーが効いた。「チェンジアップもカーブも使わず

と笑顔で語った。勝った試合ではあったが、スクイズでの得点場面を逸していた。「チャンス私を逃していたが、選手がよくカバーしてくれた」とは、畑田監督。16強だ。サア、三回戦だ。

相手は次城の常総学院だ。

母校・静岡は先発鶴田投手の制球が定まらず、守備の乱れあつて三回までに3点のリードを許すと、六回、七回にも2点づつを加えられた。常総の2投手の継投にかわされて得点を挙げられなかった。静岡ナインの夏は四年前と同じく、ベスト16で終わりを告げた。相手・常総ナインの試合巧者ぶりが随所に現れていた。

に勝負した」と捕手の青池。昨年以来的の完投となった増井は「後ろにいい投手がいるので行ける処まで行く積もりで投げた」

回想・随感など

同期会と叙勲

64期 長島 健

在京の同期会は毎年七月七日の七夕の宵に開かれる。会場は新宿、新橋を経て今は港区田町の「道灌がかり」である。

私は転勤先の地方から東京に戻った折に、静中の駅南通学班の同僚であつた名波倉四郎君に誘われて新宿での会に初めて出席することとなった。爾来、三十年程になるが時間の許す限り出席して友人と再会することを楽しみとしている。

平成十五年の同期会に出席した所、幹事から私の叙勲について公表があり、お祝の言葉と記念品を頂いた。友人から祝福されることはまことに有難くまた光栄のことである。

なお、これに先立ち六月四日ブチ東海静岡における64期同窓会でも、叙勲に対するお祝を戴いた。

叙勲の理由は運輸行政に貢献があったと云うことであるが、私としては公務員として唯長年勤務してきただけであ

る。強いて云えば大都市圏における地下鉄等の鉄道整備などのお手伝いの為かもしれない。それに引き替え、先年逝去された名波君が名辯護士として世の為、人の為に尽して叙勲されたのに比べて慚愧に耐えない。

それはそれとして、勲五等双光章の受章は、ささやかなものかも知れないが、私の人生にとり一つの記念碑となっている。

78期 鈴木 藤男

78期は今年還暦。格別な感慨があるわけではないが、なにか一筆、期を代表して書くことにします。

農産物の作況が心配なるほど涼しい夏のある夜、両替町付近にあるスナック。静岡の「くうべる」に静岡、城北、英和卒業の還暦組が偶然集ったというより、還暦組が残ったといった方が正確かも知れない。いやはや、みんな元気で騒々しくて生臭い。ひとときり唄って、酔いもまわって、日付も変った頃から二、三のグループに分かれて話し込むようになった。昔しのはなし、昨今のはなし、色恋沙汰に甲子園、選挙、政治、ビジネス……。

減多に顔を合わせない者同士だから、お互いが日ごろの持ネタを述べているのだから聞く方はそこぶる刺激的で、説得力がある。ときに信じられないような綺譚もあつて場は盛りあがる一方なのである。「くうべる」のマスター吉本君だけは多くの話題に関与できる仕組みになっている。言うまでもなくマスターも同期である。

突然吉本君が立ち上がった。両手を前にかざして叫んだ。「オイオイ、みんな聞いてくれ、この佐川のヤツ、典子ちゃんと学生時代にキスをしたんだって、許されていいのかわよお！とんでもねえ奴だよな」その瞬間、一同吉本君を仰視し、それから佐川君と典子さんへと視線を流した。

御両人の顔つきは心なしかにはかんでいたようにも見えたが、わが同期では大のつく実業家の佐川君は顎を突き出して「それがどうした」という顔で立ち直っていた。典子さんも「あら、そんな事もあつたつけ」なんてトボケを囁きましたものだった。

実はこの一瞬は、次の展開がどうなるか、極めて重要な

場面なのである。

選挙になると格別元気になるので有名な佳津江さんがよく透る声で言ったものだ。「吉本くん、なに口とんがら

かして叫んでんのよ、なーんの問題もないじゃん、今となつちやあいいはなしじゃん、あんたそんなに口惜しいの」佳津江さんの勢いに少しばかりたじろいだ吉本君は、それでもめげずに声を張り上げた。「俺やあ許さんぞ、佐川も典子ちゃんも未成年の頃にそんな事をしちゃつたなんてなあ鈴木よお」

そこで私も吉本君に呼応した。「佐川！そりやまずいぞお。典子ちゃんは今だって俺たちのマドンナなんだから。」誰かが「佐川の勝ち！！！」と断じた。

やれやれなんとも純情だねえ還暦だつていうのに。

午前一時を廻ったところで佐川君がひとあし先に帰った。残ったメンバーは二時近くに一斉にみこしをあげたのだがその際、勘定は全部佐川君が済ませてあることが判明した。マスターの吉本君も気配すら見せなかった。

“そうか今日は同窓会でも

同期会でもなかったんだ。”

(本人以外は仮名)

下北沢のしずおか屋

76期 鈴木 浩

私も東京生活がすでに、静岡時代のそれより大きく上回りましたが、相変わらず静岡時代が私の大きな部分を占める存在です。かつて私は世田谷区の下北沢に済んでおりまして。最近はずっかり街も変わってしまった、40年も前を知っている者にとつて全く異郷となつてしまいましたが、そこにご存知の方もいらっしゃると思います。その名も「しずおか屋」というおでん屋が有ります。大分前に品川区の五反田の駿河路という居酒屋を書きましたが、このお店もなつかしい静岡タイプのおでんが食べられます。ちょっと足の便がわるい。(下北沢北口より徒歩7〜10分、一番街の踏み切り近く)とつても目立たないお店ですが、店内になつかしいグッズもあり、落ち着ける感じがします。

しずおか屋

世田谷区北沢2-33-12

第二トキワビル202

tel 03-3465-6154

七七期 還暦記念誌発行

77期 清水 雅尚

二〇〇三年
甲子園観戦記

87期 高橋 宏

77期諸君もとうとう赤いチャンチャンコかと、40数年前は思いもしなかった年齢に到達しました。来し方を訪ねる旅は編集責任者となった村松貴彦君から発案があり、半信半疑ながら編集会議を開きつつ準備を進めました。まず財源は同窓生一人二万円の出資を募り何とか確保しました。紆余曲折を経ながらも今夏の還暦祝いに間に合った次第です。出来上がって見れば大層な本になっているではないか。これも村松君が長年苦労して来た編集者としての成果ではないかと思う。考えて見れば三年次、甲子園準優勝。バスケットボール国体準優勝。

進学実績は言うまでもなく静岡の文武両道を体現した年次では無かったと思う。先輩後輩の皆さん、この本を参考に記念誌を出されたら如何でしょう。希望の方は事務局までご連絡下さい。(版価は送料込みで一冊二千円)

七高七

い。(版価は送料込みで一冊二千円)

今年はどうした巡り合わせか阪神タイガースが快進撃、死のロードに出る前に早々にマジックが点灯したかと思いきや静岡もあれよあれよで甲子園出場を決めた。母港の優勝決定は仕事の最中にインターネットで知り、すぐにメールで仲間へ祝甲子園出場を連絡した。しかし次の心配は日程である。うまく盆休みに当たってくれるといいのだが。やっと日程が決まったら今度は雨で順延。このお蔭で同期の藤科君と連絡が取れ一緒に甲子園へ乗り込む事になった。

対戦校は日大長崎、当日は曇りで順延も無く予定時間前にプレイボール。試合は追いつ追われつの大接戦、何回も甲子園へ応援に行ったが、こんなに興奮したのは初めてだ。何回も逆転されるのではないかと冷や冷やしたがピンチになると選手がマウンドに集まりピョンと軽くジャンプ。このおまじないが効いて

必ず同点止まりで抑えた。丁度後ろにいた人の話が耳に入ってきて「なーに予選だつて何回も負けそうになったが勝つて来た。今日だつて大丈夫だよ(ずら?)」4対3で劇的なサヨナラ。勿論こんなことは初体験。梅田の駅ではつたり会った77期の恒生先輩達と地下街の居酒屋へ繰り出しての祝勝会。球場で同窓生にあまり会えなかったのではあり関東同窓会の先輩は有り難いと思った。六日後の二回戦、東京に戻って第四試合だったので、馴染みの居酒屋でビールを飲みながらテレビ観戦。またしても一点差で勝った。次は常総学院だ。

ありがとう静岡ナイン。

六四期

秋のゴルフ会

64期 佐野 旭

去る10月24日、第38回関東・静岡合同ゴルフ会を、小田急西富士ゴルフ倶楽部で行いました。最近「前日雨、当日晴」のコンディションが続いていましたが、今回は早朝より晴れ、「元氣印」を自認

する「ゴルフ虫噛まれ患者」17名(関東7、静岡10)が参加しました。

優勝は久方ぶりに参加の新井彰君、グロス97、ネット81。優勝楯を手に「久しぶりのゴルフで、100を切りたいと思っていたのに、計らずも優勝してしまい申し訳ない……。」と奥床しい挨拶。(やつてないとはいへこのスコア……!)そうだが彼の第2の戦場は、ゴルフ練習場でした(つけ)。前回3位の大石次男兄、春と同ネットの82で準優勝を飾る、このところ一打差などでトビ賞、当日賞を逃すことが多かっただけに、久しぶりの準優勝に「今日は、木に当たればフェアウェイに出るわ、ノーズロは出るわ!!まさに幸運の一日……。」とラッキーを強調。

ネット83で4人が競う混戦を制したのは練習魔の風間政彦君(3位・NP)、グロス88でもベスグロに僅か及ばず残念。同ネットの4位は清水照彦兄、いつも通りに手堅くグロス93に収めたものの、今回も利あらず、ハンデ差で入賞を逃す。このところNP常連の

鈴木高保君は今回も2個を獲得して、5位(トビ賞)、「シヨートホールは本場に強い……!!」

「グロス107?……ナンデダロ」とは同伴競技者の弁。大会会長野沢正憲君、前夜ロッヂに泊り込んでの出陣も、調子上向かず、ハンデ差で6位。(ヤッパリイロイロツカレルヨネ……!)

ベスグロには聞きなれた渡辺進式君の名が、グロス85で、NPとラッキーセブン賞も併せ獲得。いつもベスグロを争っていた渡辺宏一、伊藤剛両君は体調すぐれず、ビギナー時代のスコアでそれぞれ13、15位に沈む。伊藤君NP一個はとったものの「やれやれ疲れた!!」。両君の復調を望むや切。静岡に転居後一年、自家産の柿を土産に参加してくれた村上善代二君は、グロス98で8位(ウーム、本調子には今一つ……)。早朝3時に起床、始発電車を乗り継いで川越から駆けつけた山本和彦君、前半は目が醒めず大タタキ、後半の追い上げも及ばず8位「でも、みんなと談笑の中の一杯が大切だ

よ・・・」(わかるわかる！) 永田進一君はこのところ順位移動が激しく、前々回BB、前回準優勝とNP、と復調の兆が見えたのに、今回はパートナーが足を引っ張ったか、後半大クズレして14位。(パートナーは佐野、村松です)。栄えあるBB賞は石原良昭君、彼も上位入賞やらBBや



うや。(野沢、石原、時田、佐野) 古希を過ぎ、近年、体調不良、長距離運転不安、乗用カート希望などの話が増えて来ましたが、「安・近・楽」ゴルフ(安くて近くてカートで廻る)を楽しみたい方の参加を待っています。次回は御殿場近辺、静岡幹事、で行う予定です。

らと、上下動激しく「村松君のいる間は・・・」とメーカーに感謝の弁。そういえばラウンド中から、村松君のスコアを気に掛けていました。つけ。メーカー村松敏雄君には「ホンマによく叩きました」とホンマのボール3ヶ。前出以外のニアピン獲得者は、漆畑茂君(前回優勝NP2)、時田勝博君と佐野旭。

八十期同期会

80期 吉野 卓史

「秋宵値千金、大いに飲み、語ろう」と十一月二十七日(木) 日比谷「マリクラブ」に二十六名が集まりました。八十期同期会は母校創立百年行事が静岡で行われた際に「東京近辺にいるもので集まろう」とスタートしたもので、名簿登録は約百名、同期会には例年三十名弱の参加と活発な活動状況と言えるでしょう。今年は母校百二十五周年、甲子園出場と話題も尽きぬところでしたが、一人ずつ披露した近況報告は、還暦を間近にした世代らしく、「散歩の途中で良い霊園があったので買った」「年金制度はどうな



ってんだ」「子供が独立して夫婦だけになり息がつまる」と言った内容で野次が飛ぶやらチャチャが入るやら大いに盛り上がりました。八十期の皆さん、来年は卒業四十周年です。例年どおり十一月下旬に開催の予定です。ので奮ってご参加下さい。

★★★★★★ 静中・静岡関東同窓会 ホームページ便り ★★★★★★

このホームページを作成して、3年目になります。ご利用を有り難うございます。

少しづつですが、掲載内容を更新しておりますので、是非、ご覧下さい。

静中・静岡同窓会

<http://shizuko.cc> (静高はココ と読みます)

静中・静岡関東同窓会

<http://kanto.shizuko.cc> (関東静高はココ と読みます)

同 関東同窓会メールアドレス

kanto@shizuko.cc (広報担当 石川宛て)

広報委員会 石川嘉和 (87期)

同期会など

五六期同期会

56期 清水逸郎

平成十五年の関東地区同期会は十月二十一日(火)十三時から三時間、公務員共済の「ホテル東京」で開かれた。出席者は、青木良文、大野日佐太、川崎博、小菅正紀、清水逸郎、鈴木源一、西脇光夫、

萩原達雄、牧大勝三の九名。それに静岡から山田勝也君が参加してくれた。

今年度中に全員が八十歳になるこの同期会では、会員の身に身体のだこが不調になつて出席できないという者が次第に多くなつてきたのも時の流れである。去る七月四日には望月猪万男君がなくなられ、彼をしのんで思い出がいろいと語られた。

懇談は萩原君の挨拶と彼の



音頭による乾杯で始まった。最初に山田君から母校創立百二十五周年記念の行事についての話があつた。鈴木君は病を克服しての久しぶりの出席だったので、おのずから彼を中心にする話が多くなつた。元気になるということは有難いことで、座は自然と明るくなった。さらに今年甲子園で二度も「岳南健児」を聞くことができた話なども加わつて楽しさは増加した。

六四期同期会

64期 野澤 正憲

それぞれの話は尽きないに予定の時間はすぐ終り、記念写真を撮り、来年もまた同様に再会することを約束して散会した。

今年も七月七日に同期会を田町駅前の道灌がかりで開催。変つた事は開会時間を一時間早め、終りはいつもの様に飲談時間を長くした事と、座敷だと疲れるとの意見が多くあり、椅子席に変更しても

らつた。大変楽になつて呉んだが、隣との仕切りが完全でないため発言者の声が隅まで聞こえないという欠点が発生、幹事は頭をかかへこんだ。然し出席者一同そんなアクシデントも気にせず、静岡の石原良昭君より直送してくれた、鯛はんべんと玉葱のフライにアルコールが入れば一気に入に六十年前にタイムスリップした。昨年5月名波倉四郎君の急逝以来、村上崑代「一、渡辺宏一両君故郷へ帰り、神谷武男、増田誠男君、闘病中と。いつもの常連が元氣な顔を見

せないのは淋しい限りだ。世話人の佐野旭君が古き友を一生懸命探してくれるが応答ないのが実情だ。だが本当に久しぶりに今回馬場貞男君が出席し、乾杯の音頭と、永い間の無音の説明を語る。次に同期で母校の同窓会長の桜井一男君が多忙の中上京、出席し今年十一月十五日の学校創立百二十五周年記念大会を成功させるには同期生の絶大なる協力を期待すると発言あり、皆応援すること

を誓い合つた。故森下啓造君の奥様が昨年の同期会より栗田行男君の勧誘で参加され、生前森下君が母校野球部の応援にとても力を入れて居て、今年は是非甲子園に出場してほしいと話された。近況報告、栗田行男君今年も二科展入選、おめでとう。長島健君、春の叙勲、受章され同期会より記念品を贈呈した。蛭川博之君の毎日を平凡に過ごしているという言葉が印象に残つた。あつという間に時



が過ぎ、岩本吉雄君の閉会の挨拶と、塚本光彦君の発声で校歌斉唱をして散会した。出席者、鈴木明郎、長谷川直和、永田進一、竹内豊、桜井富士男、杉本哲、柳田堯、益頭尚文、松島玲子、以前より船旅をしたいと思つていたが、78期の垣生君の盡力で、小生家内と飛鳥で秋の日本一週の旅に出て、船旅の醍醐味を満喫し、又新しい発見をした。

七三期同期会は

横浜の中華街で

73期 山梨由記

例年は、秋、又は冬の時季に開催されていた関東地区の同期会は、十一月に125周年の式典などがある関係で、8月22日横浜の中華街、有名な、聘珍樓で開催されました。

今年の幹事の青木俊一郎、柴山欽伍、松下勝朗の三人が横浜在住であるので、いつもは東京都内で開催されていたのを、中華街でやることになった。久しぶりに級友に会える楽しみで中華街に入って行く、幹事三人が受付の準備をしている。待ちきれない暇のある面々が会場に集まりだし、会費を払い、名札を貰い、着席しようとする。幹事から、「今日は、三年の時のホームルーム単位で、円卓に座って下さい」と声が掛かる。

「そうか、おまえと一緒に来たのか」「もう忘れたのか」などと語らい合いながら早めの着席となる。受付には、里見信次郎の趣味のペン画集が、それも、横浜の街をスケッチしたなかなかの秀作の本があり、松下勝朗の写真によ

る絵葉書が、好みの方にプレゼントされている。

柴山のアイディアで卒業時のホームルーム単位で撮影した記念写真の全クラス分がコピーされて全員に渡される。担任の先生を中にして学生服を着た思い出の写真である。

先に着席した者達はビールを飲み始め「未だ始まっていないのに、もうビールかい」「うん、暑い中を来たのだから、乾杯のリハーサルよ」進行役から「本日は、遠路より暑い中をお越し下さいました、会長から挨拶をお願いします」山中博司から「今ま

では、最大集まっても50名を超す事が無かったのですが、暇人が多くなったのか、人恋しくなったのか、マアどちらでも良いのですが、今回は、ご覧のように64名の多数の方の参加がありました、皆さんの元気な顔をみまして、嬉しく、安心をした処です。今日は、大いに旧交を暖めて下さい。会場も、キンチャン（柴山）、青木、松下君のお蔭で中華街の有名な聘珍樓で開催となりました」

乾杯の発声も無くいつの間にか、ビールが足りないよとの声。三百七十余名の同期卒業生の中で女性12名。関東地区の同期会ではあるが、京都から田中泰子（旧姓小川）が駆けつけ、後藤孝子（伴野）遠山敦子（小沢）、林さち子（小田）、飯塚迪子（佐藤）が参加した。浜松の馬淵啓子（渡辺）のエントリーもあつたのだが、体調不良で来れないとの報告があり、残念。

進行役の松下から「遠路から、久しぶりの方に近況報告をお願いします」との事で、ニューヨークからの（これは一番遠いや）山口進が話す。「9・11のニューヨークのテロ（会報の52号に記事を寄

せてくれた）の後遺症が未だありますが、アメリカはバイタリティがあります。私の家には、知人、友人が年間、百何十人が泊りに来ます。庭に、ゴルフの100と120と150ヤードの3ホールを作り、楽しんでおります」「俺も行くぞ、クラブをもつてさ」との声が掛かる。長崎から来た、田中重穂が「三菱重工のH2Aロケット担当を辞して、今は長崎総合大学の教授をしています」との弁。広島から木村栄一は「広島大学で未だ頑張っております」京都からの田中泰子は「母の危篤で関東に来て、一睡もしておりませんが、皆さんに会いたく参加を致しました。今、大阪外語大学でロシヤ語を教えています」「大物が来ているのだから、早く話が聞きたいね」と進行役に聞こえよがしに囁く者がいる。「お待たせ致しました。近くから来ましたが、遠いと言う文字がある方に近況報告をお願いします」遠山敦子が指名される。「皆さん、お久しぶりです。今回、同期会があるとの知らせをいただきまして、皆さんに会いたく、私の秘書に、この日は、絶対、仕事を入れない様に、厳しく、

厳しく言いつけました。本当に楽しみにしております。円卓に座れるのも楽だし、席を移動して皆と逢えるのも良いですね。2年前の春、突然、小泉総理から電話があつて、文部科学大臣を担当する様に依頼がありました。文部省の出身ですから、文部行政には自信も意欲とがありますから、今日ここまで教育改革を含めて頑張つて来ましたが、実は私自身、今は総理の抵抗勢力であります。解散、内閣改造が秋に、云々されておりますが、私には、再度の依頼は無いでしょう」「否、小泉さんは、遠山さんに、ラブラブだから、又指名されるよ」との声が掛かる。（小泉第二次内閣で、総理の指名を受けたが、遠山さんは固辞された事は、ご承知の通りです）

歓談の時間になり、あちら、こちらで笑いが起こり、写真に納まる者もある。女性5人は同じ円卓に着席し、話が弾む。宴半ばで、遣送歌を歌う。しばらく歓談が続く。来年の幹事三人を決めて、校歌斉唱となり、三年時に応援指導部を創立した山梨のリードで声高らかに校歌を歌い、再会を約してお開きとなる。



富士登山奮闘記

一日目

87期 高橋 宏

関東同窓会の総会が七月の四日に終わって夜遅くまで飲んでいて、五日の土曜日に慌てて富士登山の支度をした。翌日の日曜日、京王高速バスセンターに十時半に集合、指定の時間より早く着いて仕舞い、しばらく待つと、73期の山梨先輩と77期の清水先輩の登場だ。この時点で天気は晴れ。登山は天候が大きく左右する。中央高速にて一路富士山へ。バスはガラガラで途中から乗ってくるかと思うところでは無く、後ろの席には、中年男とフイリピーナのダブル。渋滞も無く順調で一時間過ぎには五合目に到着。初めて訪れる五合目はかなり広くて設備も充実している。トイレ休息して出発。富士では水は貴重品でトイレではチップを払う。天気もよい。いよいよ富士登山の出発だ。六合目まではハイキングコースで六合目に入ると登りが少しづつ急になって岩場が多くなってくる。七合目の日の出館に着いたのが未だ夕方近くで時間があつたので明日の練習の積りで少し上まで歩いてみると

後から後から団体が登って来る。天気が良くなり明日はもう大丈夫だと確信、ここからの景色がまた素晴らしかった。今回の目的のひとつに環境問題があつた。ごみは殆ど落ちていなかった。日の出館は空いていて北海道から来た他のグループも十人位、宿の主人は親切で話も弾む。登山で一番困るのがトイレであり、トイレ一つ設置するのに膨大な費用が掛かるそう。夕食を済ますと、する事が無く夜九時に寝る。ところが眠れず何となく、夜中の一時に起きて山頂へ向けて準備を始める。

二日目

77期 清水 雅尚

二時に、宿の主人が呉れた朝食分の弁当をリュックに入れて外にでる。「来年も来ます」外は勿論真っ暗だ。昼間と違って何しろ総てが初体験だから、不安もあり期待もありで岩だらけの道を登る。私が先を歩き、山梨先輩を中にして、最後が高橋君が続く。この三人の順序は一日目から同じだ。前日の昼でも、私なりに登山していくと山梨先輩と高橋君はやや遅れてくる。二人とも体力はある筈なのだ

がペースが遅い。酸素不足の為なのだ。「山梨さん、イチ、ニツ、サンと息を吸って、それから、十を数える間に、肺から、全部吐き出すのですよ。これが酸欠を補うコツですよ」「俺は、その逆だと思っけどなあ」と山梨先輩。岩と岩の間の平坦な処を懐中電灯で探しながら後ろの人に教えながら登る。足元ばかり見ていると頭の横に垂れ下がった岩が近づいたりする。「オツと危ない、ここ、気をつけて」昨日、練習の積りで登った八合目の入口の『赤鳥居』を通過して、尾根を歩いていく時、横殴りの突風が吹いて、高橋君の帽子が吹き飛ばされた。道幅を示す鉄の鎖を越えて、探しに行くが危険だからとあきらめる。他の一行を追い越すでも無く、追い越される程の登山者は居ない。

八合目半頃に、空が薄つすらと明るくなる。静かな朝日だ。真ん丸くは成らなかつたが、おだやかな気分になった。山梨先輩が写真に納めていた。しかし、急に雨と風が強くなり、身を屈めて、登って行くと、九合目の山小屋にたどり着く。有り難い。とに角、中に入れさせて貰おう。無料では悪いので、暖かい味噌汁を注文して、下の宿で貰ったおにぎりを食べ、味噌汁を飲む。七歳位の子供を連れ、た外人八人位が、この天候でも頂上に行きたいと、「手振り身振り」で話しているが、宿の主人は日本語で「ダメダ、ダメダ」と言う。宿のアルバイトの青年が、片言の英語で、ストミウエザードから、下山した方が良いと言っている。やつと外人グループは諦めて下山した。さあ、俺たちはどうする。

梅雨明けしていない時期に來たから、天候不順以上だ。身体を囲炉裏で暖めていると、中年夫婦が入ってきて「やー、駄目だ。途中で登ったが、全く身体が先に動かないんだよ」それを聞いていた三人は、宿の主人の言葉に頷く。

「富士山は来年もあるのだから」こんな天候では我々の装備が軽すぎた。朝六時頃、下山を開始する。下るのは簡単。途中で都留大学の先生と学生達六十人とすれ違う。最後尾で登山用の背負子に二人分荷物を担いだ男子学生の後から、女子学生がよろよろと付いて来る。又、台湾からの五十人くらいの一行ともすれ違う。頂上は嵐だと言つのに。

どこまで登れたらうか。下山中、荒天の中を下から登って来る人は、前記の二組の他は、殆ど居ない。時に会う登山者は重裝備に身を固めている。日本一の山だ。こうでは無くては。日頃、遠望している美しい山も、その荒々しさに驚かされた。来年は再考の上、挑戦したい。

反省と慶び

73期 山梨 由記

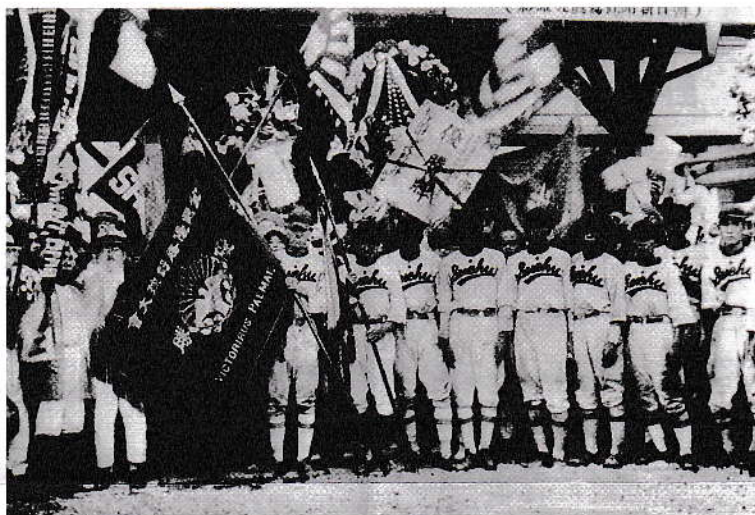
自分の体重が2kg多いので登山までに2kg減にしたいのに逆に2kg増えた事、リュックの風袋で7kgの予定が9kgになった誤算があつた。宿に荷物を預け「赤鳥居」までの一合分を登った時の身軽さが分かる。梅雨時を避け次回は七月の後半が良し。富士山が世界遺産に登録出来ないのはゴミの問題であるが五合目以上で小生がコーヒ一缶を一個、清水君がラーメンのカップとコーヒ一缶一個づつ回収したのみ。多分休憩した時に忘れた物と解釈する。登山者のマナーが良いのに驚いた。五合目以下の森林地帯の不法投棄が原因。呼吸法は清水君の説が正しい事。三人が楽しく登山できた事が最大の慶びです。

野球部の全国制覇

省一が中学に入ったその年、静岡中学は、神奈川・静岡両県を一地区とし、そこから全国中等野球大会に一校だけ出場する当時の神静大会で初めて優勝し、鳴海球場から甲子園球場に移ったばかりの第十回全国中等学校野球大会に出場した。大会初日の第一試合で北海中学と対戦し、甲子園球場における全国中等学校野球大会で第一号の満塁ホームランを田中一太郎一塁手が四回に放って四点リードしたが、その後得点を許して延長戦に持ち込まれ、5対4で

敗れてしまった。この年に静岡中学に初めて応援団が誕生し、応援歌も出来た。一年生の省一もその応援歌をうたったにちがいない。

その年から三年連続して甲子園に出場した静岡中学は、三度目に全国制覇を成し遂げた。後に講談社の関連会社であるキングレコード株式会社専務となった小河直人は、省一より一年上の四年生で左翼手だったが、九回表に主将の福島録を三塁に置いて、大連商業から絶妙のスクイズバントによって一点を挙げ、これが決勝点となって優勝したのである。福島は、慶応義塾



大学に入って宮武三郎、水原茂、山下実らと共に慶大野球部の黄金時代を築き、投手の上野精三は省一と同じ三年生であったが、後に慶応に進み、六大学リーグ戦で活躍をした。この優勝を、静岡市は提灯行列をして祝ったのだが、省一少年も熱狂したに違いない。後年、講談社の社長とな

って大変多忙な生活の中でも、省一は寸暇を盗んで高校野球のテレビを見ていたが、特に母校である今の静岡高校が出場している

★百二十五周年、甲子園出場と大変賑やかな年となり静岡や大阪で旧友を暖めた方も多かったと思います。同窓会事務局も幹事期を始め活発な動きをみせました。一方で雨の大変多かった年として記憶に残る年でありました。ここに来て風邪にやられました。皆様どうぞお気をつけて。(T) ★母校の記念式典が十一月半ばにあるので例年より一ヶ月原稿の締切りを遅くしました。会報がお手元に届くのが新年となりました。本年は戦争、紛争が無く、社会、経済が好転する事をのぞみます。清々しい新年を迎えられたと思います。皆様が健康であります様に祈念します。(Y)

編集後記

kingmail@chaatt.ne.jp

野間省一(44期)の「野間省一伝」より抜粋。資料・画像提供は、上杉重吉(60期)

大学に入らざ、プロ野球においても熱心な巨人ファンであった。大正十五年夏、この時の静岡中学野球部の全国制覇が省一を野球ファンにしたのだ。

省一の野球好きは高校野球に止まらず、プロ野球においても熱心な巨人ファンであった。大正十五年夏、この時の静岡中学野球部の全国制覇が省一を野球ファンにしたのだ。

鈴 与 株 式 会 社

取締役社長 鈴木与平 (76期)

静岡市清水入船町11-1

TEL 0543 (54) 3015 (秘書課)

京浜支店 東京都港区芝公園1-2-12

TEL 03 (3432) 7152

日本レーベル印刷株式会社

代表取締役 岩井平一郎 (57期)

本 社 静岡市国吉田3丁目1番1号

TEL 054 (262) 1111 (代)

東 京 中央区京橋1-1-6 越前屋ビル8F

TEL 03 (3272) 4651 (代)

株式会社 富士越化成

代表取締役 野澤正憲 (64期)

東京都品川区南品川2-17-11

TEL 03 (5783) 3841

TEL 03 (5783) 3755

自動車・火災・傷害保険 大 高 保 険 事 務 所

代 表 清水雅尚 (77期)

東京都渋谷区東3-15-8

TEL 03 (3406) 9350

PHS 070 (5103) 8920

同窓会で人の輪を!!

野方重人法律事務所

弁護士 野方重人 (77期)

〈事務所〉

〒101-0045 千代田区神田鍛冶町3-7-3

蔵下ビル6階

(TEL) 03 (3251) 2348

(FAX) 03 (3257) 0820

昼2時より夜11まで診療

タカラ歯科診療所

代 表 フラ シタ アキ オ (87期)

東横線 中目黒下車 徒歩5分

TEL 0120-376-480

FAX 03-3710-8847

相続税・法人税・所得税などのご相談はどうぞ!

鳥巢修税理士事務所

税理士 鳥巢 修 (89期)

OSAMU TOSU

〈事務所〉

〒167-0041 東京都杉並区善福寺1-30-17

TEL 03 (3396) 3858 FAX 03 (3396) 3848

E-mail: tosu@mtj.biglobe.ne.jp

調剤薬局……首都圏に50店舗

株式会社 アイセイ薬局

「医薬分業のパートナー」

代表取締役 岡村幸彦 (93期, 応援指導部)

東京都中央区日本橋蛸殻町2-14-5

TEL 03 (5651) 7200

http://www.aisei.co.jp

プロ野球選手 ご愛顧 28年

あのホームラン王も・有名なピッチャーも あの名監督も・コーチも

★★★ 高級仕立・オーダーメイド イージーオーダースーツ ★★★

確かな技術と縫製でご奉仕します

紳士服の 山梨テーラー 山梨株式会社 代表取締役 山梨由記 (73期)

千葉県船橋市前原西7-5-8 TEL 047 (478) 6906